

## 理事・会員数 (2022年11月現在)

会長 菊池 新一  
副会長 新田 勝見、徳吉 英一郎  
理事 荒川 栄悦、菊池 茂勝、糠森 隆、奥寺 晴夫、佐々木 憲康、  
小笠原 晋、菅原 卓、菊池 貴久子、浅沼 亜希子  
監事 菊池 千恵子、佐々木 康行  
会員数 68名(うち正会員43名)  
事務局 8名

## 沿革

2003年3月24日 設立総会  
2003年6月16日 特定非営利活動法人登記完了  
2003年7月13日 設立記念認証シンポジウム  
2004年7月23日 地域の学びの場 東北ツーリズム大学開校  
企業と連携した遠野体感型合宿自動車免許開始  
2011年3月12日 東日本大震災後方支援活動開始  
2016年2月24日 認定特定非営利活動法人への認定  
2019年9月1日 遠野旅の産地直売所の立ち上げ

## 事業目的

認定NPO法人遠野山・里・暮らしネットワークは、遠野郷を主たるフィールドとしています。「資源を生かした都市住民との交流の深化と移住の促進」「伝統文化・芸能・技術・技芸の伝承と進化と応用」「里地・里山における循環的な生活スタイルの再興と実践」を柱に具体的な事業を行うことにより、社会全体の利益の増進に寄与することを目的としています。

## クラスター組織 ～草の根型組織の水平連携～

遠野グリーンツーリズム研究会 1995  
つきもうしファーマーズネット 1997  
あやおり夢を咲かせる女性の会 1994  
パハヤチニカ編集委員会 1994  
遠野郷馬っこ王国ライディングクラブ 2001  
かやぶき職人グループ 2002  
伝統芸能団体 2002  
NPO法人遠野エコネット 2003  
農事組合法人宮守川上流生産組合 環境部会 1998  
遠野民泊協会 2006  
宮守ツーリズム協議会 2005  
東北まちづくり実践塾 2007  
里山クラブ やかまし村 2008  
あくていぶまみ～ 2004  
MG企画 2019

## 活動の概要



### ワーキングホリデー

農家とともに労働し、食事をし、数日間滞在する金銭のやり取りのない農家の居体体験を通して、互いの楽しみや生きがいづくりを目的に実施しています。



### 人材育成のための研修企画

東北ツーリズム大学等、東北各地の「文化」「食」「交流」「旅」「地域」等の農の多面的な価値を広く共有し、それらを学びの場にするカリキュラムを毎年実施しています。



### クラスター支援

里山・文化・暮らし・馬等の地域資源を活かした活動を展開する遠野市内の十数団体との協働での事業展開や各種サポート業務を実施しています。



### 遠野旅の産地直売所運営

「ありのままの暮らしを味わうこと」を旅の資源とし地域住民やGT実践者の他に多様な方々と連携し、食や暮らし、生業を強みにしたツーリズムを販売を2019年度～運営。



### 里地・里山保全・活用

住民自らが里地・里山の保全や整備、体験活動等を通して、循環的な生活スタイルの再興と実践を目的に実施しています。



### 農村民泊の推進

100軒程の遠野民泊協会会員と協働し、遠野の暮らしぶりを交流の資源とした民泊の推進と、農家民宿の立ち上げからサポートまでを実施しています。



### 遠野体感型自動車合宿免許

遠野ドライビングスクールや宿泊施設、各種体験施設と協働をして、合宿型自動車免許のカリキュラムの合間に農村民泊や馬や陶芸などの体験を提供するプログラムの実施をしています。



### 各種視察研修受け入れ

研修内容は、グリーンツーリズムや各種ビジネスを活かした地域づくり、復興応援としての後方支援の取り組み等が主です。また、旅行業第3種の旅行企画も実施しています。



### 東日本大震災復興支援

東日本大震災の被害地域である岩手県三陸沿岸地域での自立支援のためのコミュニティづくり、ツーリズム事業での協働、大学生研修受け入れなど各種協働事業のサポート。



### 地域づくり・起業サポート

岩手県内外のグリーン・ツーリズムやコミュニティビジネス等に取り組む地域の方々と共に地域づくりや起業のサポートを実施しています。

# 令和2・3年度を写真で振り返る

「自粛」の続いた年でした。社会や個人の価値観が大きく転換した年でもありました。だからこそ、「出来ること」を探求し、「準備」を図り、「大学生の現地活動」「オンライン」「市民向け企画」「被災地支援」「ワーケーション」「里山サイクリング」等新しいことに取り組みました。

## 個人旅行 視察研修共に増加傾向

県や市の宿泊割引制度を活用し、徐々に個人旅行の遠野旅産直利用が増えてきています。小規模分散、1組貸し切りでの里山・生活体験など、コロナ禍で旅行の携帯が変化していることを実感しています。岩手県内、北海道、福島、宮城、東京等視察研修の受入も秋・冬増えてきています。この傾向は令和4年度加速しています。



## 里山サイクリング ホップ畑・立ち寄り農家

ホップの有数な生産地遠野ではビールの里の地域資源を活用して、サイクリングや農村の暮らし体感、農家民宿・レストランなどを組み合わせた遠野里山ホップサイクリングの取り組みが令和4年度より始動しました。農家民宿に泊まり、ホップ畑見学やサイクリング、クラフトビールとともに農家民宿を楽しむ企画好評。



## 市民企画 地元を楽しもっキャンペーン！

2020年10～12月に遠野市民限定で「まちぶら」「さとぶら」の販売。参加者からは「前から行こうと思っていたので」「遠くに行かなくても十分楽しめた」等の好評価を得て、家族や子ども会、友人同士など計300名の参加がありました。今後も実施を計画中です。



## ワーケーション JAL・NTT, ピアワーケーション

JAL 農業留学 2021 という、株式会社日本航空が主催で、首都圏の移住・関係人口社会人希望者11名を14日間受け入れました。テレワークできる環境も揃え、日々内容を変えながら、市内多くの団体・個人と協働し、遠野の農業や暮らしを体感する企画をコーディネートしました。新規プログラム造成や地域内外の縁を繋ぐことができました。



## オンライン

山里ネットスタッフがインターネットで生配信をする企画を多く実施しました。被災地支援の一環として「遠野のひなまつり」と「フラワーアレンジメント」(松田生花店)を内容に陸前高田や大槌の方々約50名が参加しました。遠野を体感で来たと好評でした。



## 合宿好評 遠野自動車合宿免許好調

設立当初から遠野ドライビングスクールとの協働事業「グリーン・ツーリズム型合宿自動車免許」が令和2年度コロナ禍でも好調でした。生徒は事前検査を行い、各施設で感染症対策を行いながらの実施でした。体験メニューは自粛する期間もあり33人(前年比△136)、農泊0人(前年比△13人)で減少傾向でしたが、合宿生は471人(前年比△56人)でした。



## オンラインと現地活動 遠野GT×被災地支援ツアー

10日目になる法政大学ボランティアセンター主催の被災地支援活動を11月に数名の参加で実施しました。大槌町の市民交流施設おしゃっちでの草刈りや館内装飾などのボランティア活動と遠野のグリーン・ツーリズムを内容にした新企画を実施。3月にはオンラインの被災地スタディツアーも現地30名、オンライン0名参加。2021年度も実施予定です。



## 被災地支援 コロナ禍のコミュニティづくり

東日本大震災の被災地ではコミュニティの再構築が課題です。発災当時から支援をしている大槌町と陸前高田市の公営住宅や周辺住民を対象にサロン企画を社協や自治会と協働し実施しています。中止した企画は多くありましたが、手芸講習会、花壇整備活動、刃物研ぎ講座など地域内の講師を招聘し、コロナ禍でも開催できる方法を模索した1年となりました。県の補助や民間寄付を活動資金に2021年度も継続していきます。



## 被災地支援 なりわい支援

県内の団体と協働した県復興局の事業で「なりわいの支援」を実施しました。震災10年目の個人経営の事業者に寄り添いながら商工会と連携し、継続的かつ発展的な方法を一緒に模索しました。三陸沿岸の商品を集めたマルシェも「カワトク」(県内道の駅)で開催し、好評でした。スタッフも県内すべての会場で販売員をしました。



## 主な助成事業等の実績

1. 遠野市委託事業 ツーリズム型交流推進事業 平成15年から継続  
事業費 1,092千円～1,300千円
2. 農水省 農山漁村地域力発掘支援モデル事業平成20・21年  
事業費 2,067千円～3,000千円
3. 経産省 農商工連携等促進人材創出事業 平成20～22年  
事業費8,361千円～11,388千円
4. 農水省等 子ども農山漁村交流モデル事業 平成20・21年  
事業費 946千円～3,000千円
5. 岩手県民参加の森林づくり促進事業 平成20年～22年  
事業費 436千円～549千円
6. 岩手県農山村活性化交流拡大モデル構築事業 平成20年～22年  
事業費 4,662千円～7,453千円
7. 経産省 CB、SB元気アップ事業 平成23年 事業費 2,300千円
8. 農水省 食と地域の交流促進対策事業 平成23年～平成24年  
事業費 2,200千円～2,500千円
9. 内閣府 復興支援型雇用創造事業 平成24年  
事業費 14,000千円
10. 内閣府 復興支援型雇用創造事業 (平成24年)復興六起  
事業費 14,000千円 (ふるさと回帰支援センターとの協働事業)
11. 総務省「域学連携」地域活力創出モデル実証事業 平成25年度  
事業費 14,000千円 (法政大学と遠野市の協働事業)
12. 岩手県 GT 実践塾開催委託業務 (複数年継続事業)  
平成28年度～:1,017千円
13. 農林水産業みらい基金 農林水産業みらいプロジェクト  
平成30年～3か年 :9,950千円
14. 岩手県 被災者の参画による心の復興事業費補助金 令和2年2,545千円
15. 岩手県 NPO等による復興支援事業費補助金 令和2年2,520千円
16. 岩手県 いわてグリーン・ツーリズム開催委託業務 令和3年～2,079千円

## 令和3年度を数字で振り返る

- 遠野民泊協会 … 104軒 (▲32)
- 農村型ワーキングホリデー … 参加:1人/日 (+1)、受け入れ:2軒 (▲1)
- 遠野ドライビングスクール … 合宿生参加者:586人 (+115) 内GT体験者数76人 (+43)
- 農村民泊体験者数 … 延べ364人 (+338) 内外国人1人 (+1)  
内体験型教育旅行 … 民泊校数:3校 (大平ゼミ含む) (+1)、生徒数:延べ152人 (+143)
- 東北ツーリズム大学 … 実施回数:1回 (±0)、参加者:延べ50人 (▲50)
- 被災地のコミュニティ作りのための交流活動:延べ557人  
(編み物・お茶っこ・お花見・包丁研ぎ・屋外スポーツ)
- 視察受け入れ回数 … 14回 (+14) (事務所等での講話を主な内容にした対応の回数)
- メディア掲載回数 … 11回 (+9)

※()は前年度対比